

クロスカントリースキー・スーパースケーティングにおける滑走動作の動作比較

The motion comparison of sliding skill in cross-country ski·super-skating.

1K05B145

角田 諭亮

指導教員

主査 間野義之先生

副査 澤井和彦先生

1. 背景

近年、サッカースタジアムの建設や増改築が盛んになっているが、サッカースタジアムの経営は良好ではなく、現状のままでは存在するだけで借金を抱えていくスタジアムが多数生まれる。この状況を打開するにはスタジアムに観客が大勢集まる必要がある、そのためには顧客満足度の高いスタジアムになることが必要である。現在の集客施設のトイレは集客装置であるとまで言われている。同じ集客施設であるサッカースタジアムでも、顧客満足度の向上のためにトイレが影響を与える可能性があるのではないかと考え、今回の研究に至った。先行研究での中心はトイレ内の適正器具数算定方法である。サッカースタジアム内のトイレにおける適正器具数の算定方法は浅野等(1999)が構築している。

2. 研究目的

本研究の目的は、集客施設において来客数の増加や顧客満足度の増加に寄与するとされているトイレを研究対象とし、将来トイレがサッカースタジアムに来客数の増加や顧客満足度の増加をもたらす足掛かりとして、サッカースタジアム内トイレの現状と課題を明らかにすることを目的とする。

3. 研究方法

本研究では浅野(2004)が提案したサッカースタジアムに求められるコンセプトである「休憩時間中にすべての使用を終わらせること」「休憩時間の前段に集中してくる利用者の最長の待ち行列

を推定し、そのスペースを確保していること」の2点に基づいて、サッカースタジアム内トイレの現状を把握する。そのために3つの調査「各スタジアム内のトイレ便器整備状況調査」「最新事例調査」「サッカー試合開催日のトイレ観察調査」を行った。

4. 結果

各スタジアム内のトイレ便器整備状況調査では、調査で得られたデータを使い、各スタジアムの便器整備状況の現状を浅野(2004)が提案した待ち行列が拡張する施設における適正器具数の算定方法などを使い、分析した。この適正器具数と設置器具数の比較では、適正器具数の範囲内に実際の設置器具数が入っているトイレはデータを得られた22カ所中の5ヶ所のトイレであり、加えて設置器具数が適正器具数の範囲を超えているのが3カ所のトイレという結果であった。

最新事例調査では、最新のスタジアムであるNACK5スタジアム大宮において視察を行い、女子トイレの配置、トイレ出入り口の分離、洗面器の鏡など、2つのコンセプトを達成するための様々な工夫が見られた。

サッカー試合開催日のトイレ観察調査では、等々力陸上競技場・味の素スタジアム・NACK5スタジアム大宮の3施設において、サッカー試合開催日のトイレの観察調査を行った。そこでは、待ち行列が発生しなかった味の素スタジアムを除いて、ハーフタイムの時間内に利用が終了することはなかった。また3施設とも待ち行列が待機するスペースはあったが、行列が発生した2施設で

は待ち行列がコンコースにまで及び通行人の妨害をする状況であった。

5. 考察

特定トイレ内の便器整備状況の結果やサッカー試合日のトイレ観察調査の結果からわかるように全体的にトイレの設置器具数が休憩時間内に使用を終わらせるためには設置器具数が不足している状況である。また、サッカー試合日のトイレ観察調査の結果からわかる通り、トイレ内の待ち行列のスペースが充分でないことがわかる。また、最新事例調査からは2つのコンセプトを達成するための工夫が見られたが、この工夫がコンセプトに対しての効果がどれほどあるかわからず、根本

を改善するよりも効果が薄いと考えられる。

6. まとめ

本研究では、現在のサッカースタジアムのトイレは、2つのコンセプトをしっかり達成することが必要であることが明らかになった。また、トイレは生理的・心理的にも影響が大きいという点はプラス面に対してだけではなく、マイナス面に関しても言えることであり、少しでも不快感を与えてしまうことは大きなマイナスイメージにつながる。トイレがサッカースタジアムにおける集客装置となるためにも、この2つのコンセプトを達成することが必要不可欠である。